立命館学校教育研究会
秋季大会 2026　ご報告

テーマ：子どもたちが変わる瞬間～『宙わたる教室』につながる教育とは？～

2026 年 11 月 1 日（日）、立命館朱雀キャンパスにおいて、2026 年度立命館学校教育研究会総会・秋季大会が開催されました。あわせて Zoom での配信も行いました。校友教員の方をはじめとして、立命館大学の学生や大学院生、教育委員会関係者の方々など幅広い職種・年代の方に対面とオンラインあわせて 80 名を超える方々のご参加をいただきました。

総会

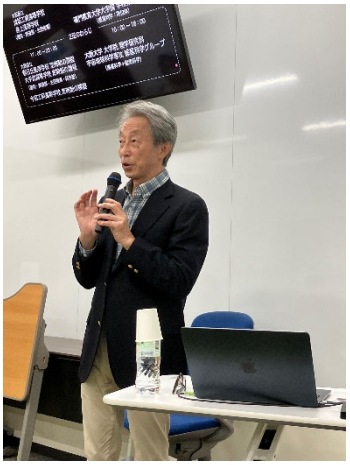
総会では、上山義宏会長より本大会開催にあたってのご挨拶のあと、「2026 年度立命館大学学校教育研究会運営委員体制」について提案があり、承認されました。続いて井上政嗣副会長より、「2025 年度立命館学校教育研究会事業報告ならびに 2026 年度立命館学校教育研究会事業計画」について報告提案があり、承認されました。最後に、四方利明副会長（立命館大学教職教育センター長）から2025 年度に実施された教員採用試験の本学学生の受験結果等について報告がありました。

秋季大会（講演）

総会後に開催された立命館学校教育研究会 2026 年度秋季大会では、久好圭治氏を講師に迎え、「子どもたちが変わる瞬間～『宙わたる教室』につながる教育とは？～」と題して講演会を開催しました。

ご講演では、高校の理科教員として生徒と向き合いながら惑星科学の研究を続け、定時制高校で科学部を立ち上げた経験が紹介されました。その科学部では、年齢や学習経験、生活背景の異なる生徒たちが集い、手作りの装置を使いながら、重力やクレーターなど、まだ答えの出ていない問いに挑戦してこられました。限られた環境の中でも工夫を重ね、学会やコンテストで研究成果を発表し、小惑星探査機「はやぶさ 2」に関わる研究者との連携へと発展した事例も紹介されました。

こうした活動で大切にしてこられたのは、未解決の課題に取り組み、試行錯誤の過程を大切にすること、仲間とともに研究し、その成果を自分たちの言葉で伝えるということです。初めての挑戦に不安を感じる生徒たちに寄り添いながら、結果だけでなく、問いを追究する面白さを共有してきたと語られました。また、生徒がある研究者の方から一人の研究者として向き合われ、自らの研究に真剣に耳を傾けてもらった経験が、その後の活動への意欲につながったことも紹介されました。



さらに、多様な背景をもつ生徒一人ひとりの内面や思いに目を向け、安心して「分からない」と言える関係を築くことの大切さについても語られました。学校では想定外のことが起こるからこそ、マニュアルに沿うだけで



なく、子どもの声を聴き、教職員がチームで考え、状況に応じて対応することの重要性が示されました。

　質疑応答では、多様な子どもたちを包摂する教育や、学校における支援のあり方について意見が交わされました。講演を通じて、子どもの可能性を信じ、ひとりひとりが安心できる場と信頼関係の中で学びを支えることの意味を、参加者とともに共有する機会となりました。

　大会終了後の茶話会では、久好先生にも参加いただき、崎野隆・立命館学校教育研究会顧問のあいさつの後、和やかな雰囲気の中、参加者間で学校や教師の役割についての議論がはずみました。

以上